

ラナンキュラス  
*Ranunculus asiaticus*  
 (キンポウゲ科)

品種改良によりシャクヤクの花にと見間違ふほどに巨大化し、近年人気が高まった。暑さには弱い低温期の切り花で、主な流通期間は12月から4月。ほとんどがバケツか水入り縦箱で出荷されている。花弁が薄く大きいので灰色かび病が発症しやすい。生け花初期には花弁は昼間は開き夜閉じるが、徐々に開きっぱなしになり、萎れる。後処理剤で花が大きく咲き、萎凋が遅れる。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
花の老化	A: 花弁に張りがあり、花芯が見えない B: 花芯まで花弁がほとんど展開し、外側花弁がやや張りを失う C: 花芯が見え始め、すべての花弁が張りを失い、一部の花弁が萎れる D: 花芯が見え、花弁が萎れ、垂れる。進行すると落弁し、花芯にある雌しべ群が伸長する	花弁には張りがなく軟らかいが、萎れると一層張りがなく軟らかくなるので、容易に区別できる。
灰色かび病の発症	A, B: 発症が認められない D: 発症	発症した切り花は花びんから取りのぞく。
葉の萎れ	A: 硬く張りがある B: 張りを失い、垂れる C: 張りを失い、垂れるとともに黄変する D: 激しく黄変する	参考程度でよい。
その他		

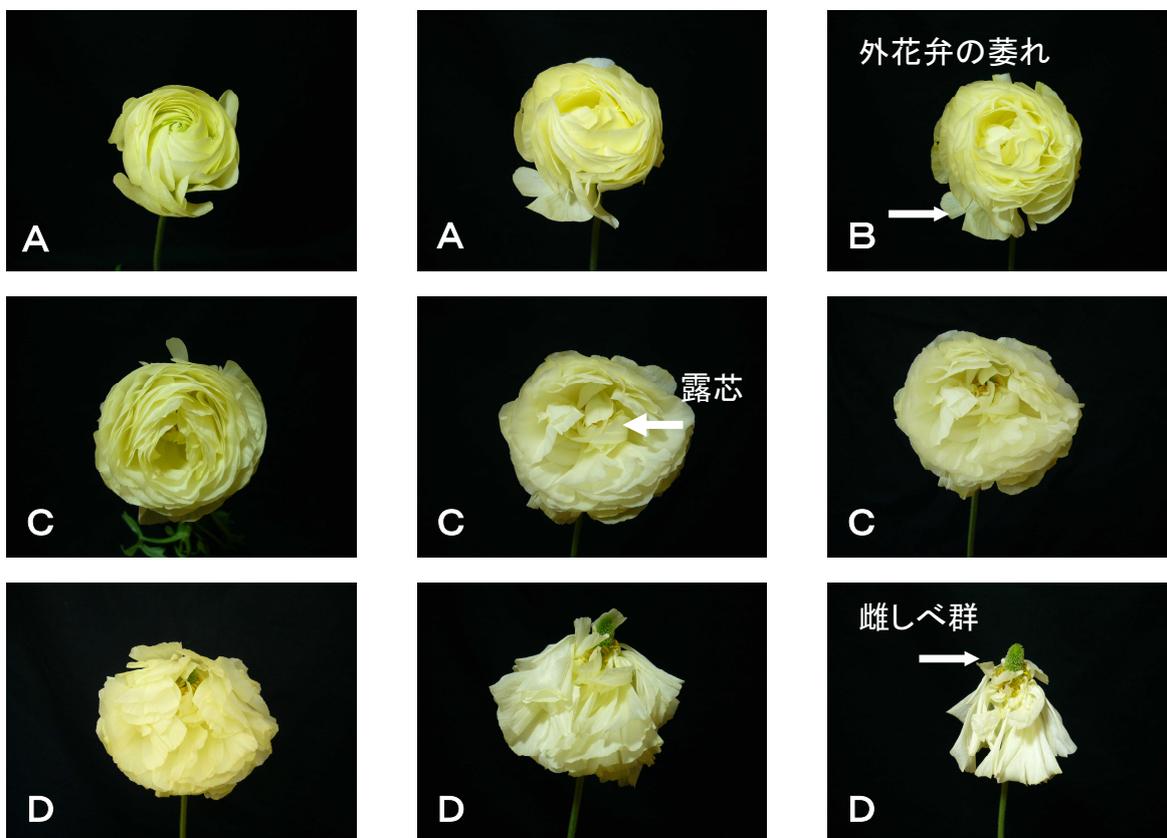
2) 留意点

- ・灰色かび病が認められた切り花は供試しない。
- ・生け花直後には昼に花が開き、夜に閉じることを繰り返すが、開花が進むと開きっぱなしになる。
- ・葉は貧弱で数も少ないので、日持ち調査の主眼は花の老化である。
- ・後処理剤の効果は大きい。

### 3) 開花



#### 4) チェック事項



#### 灰色かび病



#### 花卉の落下



#### 後処理剤の効果

